

▽ 石垣 直 准教授 ISHIGAKI, Naoki



所 属： 総合文化学部 社会文化学科

担当科目： ◆学部

文化人類学Ⅰ・Ⅱ、文化人類学概論、アジア文化概論、
多民族論、アジア社会文化論Ⅰ（中国）、領域演習、演
習Ⅰ・Ⅱ

◆大学院

東アジア文化人類学特論ⅠA・ⅠB

学歴等のプロフィール

①【主要学歴】 ②【学位】 ③【所属学会】 ④【主要な社会的活動】

- ①東京都立大学大学院 社会科学研究科(社会人類学専攻)博士課程 単位取得退学
- ②博士（社会人類学 2008年2月 東京都立大学）
- ③日本文化人類学会、日本台湾学会、沖縄民俗学会、沖縄文化協会
- ④

研究分野

社会人類学 台湾原住民研究 台湾地域研究 沖縄地域研究

研究業績等

【主要論文及び主要著書】

1. 現代台湾における原住民母語復興（1）：諸政策の歴史的展開と現在
（『南島文化』37号、沖縄国際大学南島文化研究所、2015年）
2. 書評 松田京子著『帝国の思考：日本「帝国」と台湾原住民』
（『台湾原住民研究』18号、2015年）
3. 土地をめぐる複ゲーム状況：台湾・ブヌン社会の事例から
（杉島敬志編『複ゲーム状況の人類学：東南アジアにおける構想と実践』、風響社、2014年）
4. 先住権（含 先住権原）〔事典項目〕
（国立民族学博物館編、『世界民族百科事典』、丸善、2014年）
5. 現代台湾における原住民族運動：ナショナル／グローバルな潮流とローカル社会の現実
（日本順益台湾原住民研究会編『台湾原住民研究の射程：接合される過去と現在』、風響社、
2014年）
6. 書評 黄應貴著『「文明」之路』
（『台湾原住民研究』17号、2014年）

7. 先住民族運動と琉球・沖縄：歴史的経緯と様々な取り組み
(『世変わりの後で復帰 40 年を考える』〔沖縄国際大学公開講座 22〕、東洋企画、2013 年)
8. 書評 林淑美 (編著)『現代オーストロネシア語族と華人：口述歴史：台湾を事例として』
(『台湾原住民研究』16 号、2013 年)
9. 現代台湾社会をめぐる「求心力・遠心力」と原住民：ブヌンの事例を中心とした初歩的検討
(沼崎一郎・佐藤幸人編『交錯する台湾社会』、アジア経済研究所、2012 年)
10. 『現代台湾を生きる原住民：ブヌンの土地と権利回復運動の人類学』
(著書、風響社、2011 年)
11. Book Review: WAKABAYASHI, Masahiro 2008 *The “Republic of China” and the Politics of Taiwanization: The Changing Identity of Taiwan in Postwar East Asia.*
(*China Information* 25(1), March, 2011)
12. 書評 湯浅浩史著『瀬川孝吉 台湾原住民族影像誌 布農族篇』
(『台湾原住民研究』14 号、2010 年)
13. ブヌン研究史における馬淵東一的位置：特徴・問題点・可能性
(笠原政治編『馬淵東一と台湾原住民族研究』、風響社、2010 年)
14. 現代台湾における原住民族母語教育：その歴史と現状
(第 32 回南島文化市民講座「“しまくとぅば”の未来：少数派言語とその活性化」、沖縄国際大学南島文化研究所、2010 年)
15. 書評 夷将・拔路兒等編『台湾原住民族運動史料彙編』(上・下)』
(『台湾原住民研究』13 号、2009 年)
16. 先住民のうた・こころ 台湾・ブヌン 1～3
(『婦人之友』7～9 月号、2009 年)
17. 土地所有をめぐる現実：台湾・ブヌン社会における保留地継承・分配制度の現代的諸相
(『アジア・アフリカ言語文化研究』77 号、東京外国語大学、2009 年)
18. 現代ブヌン社会における高齢者セイフティー・ネットワーク
(『民俗文化研究』10 号、2009 年)
19. 現代台湾の多文化主義と先住権の行方：〈原住民族〉による土地をめぐる権利回復運動の事例から
(『日本台湾学会報』9 号、2007 年)
20. 高齢者と生きがい：川崎市川崎区における沖縄出身者の事例から
(『高齢化社会から熟年社会へ：都市形成過程における高齢者の多様化とそのセイフティ・ネットワークの構築』(平成 18 年度傾斜的研究費 (都市形成に関わる研究) 研究成果報告書、2007 年)
21. 現代台湾における〈原住民族〉の位置づけ：「原住民族自治区法」草案をめぐる
(『社会人類学年報』32 号、2006 年)
22. 「部落地図」調査之省思：以布農族之内本鹿調査爲例
(『東台湾研究』10 号、中文、2005 年)
23. イエとクラン：台湾・ブヌン社会の「クラン」概念再考
(小池誠編『アジアの家社会』(アジア遊学 No.74)、勉誠出版、2005 年)
24. 内本鹿への旅：〈尋根〉の人類学にむけて

(『台湾原住民研究』 8号、2004年)

25. 沖縄・金武町における門中の現在と人類学：屋嘉・前田門中の事例から

(『民俗文化研究』 4号、2003年)

26. 故郷への帰還：台湾先住民・ブヌン社会における〈部落地図〉作成運動と想像力

(『社会人類学年報』 29号、2003年)

27. 台湾ブヌンの現代的婚姻：“home-land Bunun”のその後

(『台湾原住民研究』 5号、2001年)

受賞歴

・日本台湾学会賞

(第5回・歴史社会分野 2007年発表の論文「現代台湾の多文化主義と先住権の行方」『日本台湾学会報』9号に対して)

【Eメール・ホームページ等】

E-mail: nishigaki@okiu.ac.jp

研究・業績 (Researchmap): <http://researchmap.jp/read0124251/>

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育活動 1) アジア文化概論 I・II (月曜・3限)	2010年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・総合文化学部社会文化学科 選択必修科目 ・講義内容: 前期に中国、韓国、日本の事例を、後期に台湾、東南アジア、オセアニアの事例を取り上げ、沖縄周地域の歴史・文化・現状に関する基礎的理解を深めることを目指す。 ・登録者数: 約 60 人。
2) 文化人類学 I・II (火曜・4限 & 水曜・3限)	2010年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・共通科目(社会・生活科目群) ・講義内容: 前期には、親族、贈与交換、儀礼、象徴・認識・コミュニケーション、世界観・宗教など、生活にかかわる諸トピックを人類学的な視点で理解する作法を講義している。後期には、前期講義における理解を踏まえ、より理論的な側面から人類社会のさまざまな側面を分析する視点を提示している。 ・登録者数: 約 100～150 人。
3) 中国の言語と文化 I (水曜・2限、前期)	2011年9月～	<ul style="list-style-type: none"> ・総合文化学部社会文化学科 選択必修科目 ・講義内容: 「巨大な隣人・中国」について、基本データ、歴史、言語、親族・人間関係、思想・宗教、現代社会、香港・台湾・華僑社会などのトピックに着目して講義している。 ・登録者数: 約 20 人。
4) 文化人類学概論 I (水曜・5限、前期後半)	2010年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・総合文化学部社会文化学科 必修科目 ・講義内容: 親族、贈与交換、儀礼、象徴・認識・コミュニケーション、世界観・宗教など、生活にかかわる諸トピックを題材とし、人類学理論からみた世界の諸社会・文化の共通性／独自性に関する講義を行っている。 ・登録者数: 100 人。
5) 多民族論 (金曜・2限、前期)	2010年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・共通科目(国際理解科目群) ・講義内容: 自明のことと考えられがちな「民族」「国民」および「民族紛争」といった事象が極めて近代的なものであることを、ヨーロッパと米国の近代史、アジア・アフリカ地域にお

<p>6)基礎演習(2年) (木曜・4限) (アジア文化人類学ゼミ)</p>	<p>2010年4月～</p>	<p>ける民族紛争の事例を紹介しながら明らかにする。 ・登録者数:約100人。</p> <p>・総合文化学部社会文化学科 必修科目 ・演習内容:沖縄地域に関する基礎的文献を輪読したうえで、夏休みには1週間程度の調査実習を行い、年度末に調査成果報告書(『みんなぞく』)を作成している。これまでに、今帰仁村今泊、本部町瀬底、東村平良、金武町金武区などで調査実習を実施してきた。 ・登録者数:約15人。</p>
<p>7)演習(3年) (木曜・2限) (アジア文化人類学ゼミ)</p>	<p>2010年4月～</p>	<p>・総合文化学部社会文化学科 必修科目 ・演習内容:アジア・沖縄、もしくは人類学に関連するテーマを各自に選択させ、ゼミ論文を作成させる。前期前半には人類学関連の文献を輪読し、後に各自設定のテーマに関する文献研究を個人発表させる。後期後半にはゼミ論文の作成方法、中間発表、最終発表などを行っている。 ・登録者数:約15人。</p>
<p>8)卒業論文指導演習(4年) (木曜・1限) (アジア文化人類学ゼミ)</p>	<p>2010年4月～</p>	<p>・総合文化学部社会文化学科 必修科目 ・演習内容:3年次の演習内容・成果を踏まえたうえで、卒業論文を作成することを目的とする。テーマ設定は各ゼミ生に任せているが、どのようなテーマを選択した場合も、「歴史性」、「基本的構造」、「具体的事例」、「フィールドワーク」、「人類社会へのまなざし」を重視した論文作成を指導している。 ・登録者数:約15人。</p>
<p>9)東アジア文化人類学特論 IA/IB(大学院) (月曜・6限)</p>	<p>2014年4月～</p>	<p>・大学院科目(地域文化専攻民俗文化領域) ・中国地域を対象とした文化人類学研究の基礎的理解を目指す演習。前期は中国社会・文化研究の意義や親族組織を中心に、後期は宗教に関する文献を中心に輪読&討議を進めている。 ・5名程度</p>

2. 作成した教科書、教材、参考書		・特になし。
3. 学生支援活動		
1) 学習支援	2010年4月～	・オフィスアワー: 月曜日・4限目をオフィスアワーに設定し、学生の指導にあてている。また、時間の許す限り、それ以外の時間帯でも学生の学習支援／生活習慣改善指導／キャリア支援に取り組んでいる。
2) 生活習慣改善指導	2010年4月～	・同上
3) キャリア支援	2010年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・特にゼミ学生には、本学の就職率、沖縄経済の現状と県外との経済格差、「沖縄21世紀ビジョン」などについて紹介し、2年生の時点から人生設計および就職活動に向けた取り組みを行うことの重要性を説いている。 ・なお、ゼミ生の中には国内留学・海外留学を実行に移した者、インターンシップに参加した者、留学を検討中の者なども少なくない。
4) サークル・部活動		・特になし。
4. 学外での教育活動		
1) 学生団体での講演	2011年11月	・沖縄県内のインカレ団体である「学生観光振興プロジェクト」の学生たちに対し、台湾の歴史と現状&沖縄とのつながりについて講義。

<p>5. 教育改善活動(FD など)</p> <p>1) 授業評価アンケート</p>	<p>2010 年 4 月～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期、3 科目以上の講義で「授業評価アンケート」を実施し、その結果を講義様式の改善などに役立てている。(e.g. プロジェクター利用、デジタルファイル用法、映像教材利用、etc.)
<p>2) FD 研修会への参加</p>	<p>2010 年 4 月～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修以外でも、過去 5 回以上 FD 研修会・講演会などに参加し、自身の FD を進めるとともに、本学全体の FD 向上のために意見を述べてきた。
<p>3) レスポンス・ペーパーの活用</p>	<p>2010 年 4 月～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学が義務付ける「授業評価アンケート」とは別に、自身が担当するすべての講義・演習において、「レスポンス・ペーパー」(出席票プラスコメント・質問・要望欄)を毎回配布し、学生たちの興味・理解度チェック、講義手法の改善に役立てている。
<p>4) その他、教育改善活動</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。